

学校教育総合プラン実施計画・評価一覧 2023(令和5)～2026(令和8)年度

【逗子市立沼間小学校】

	項 目	4年間を見据えた取組内容 (できるだけ具体的な内容で記載する)	項目別評価								総合評価			
			2023 年度	重点 目標	2024 年度	重点 目標	2025 年度	重点 目標	2026 年度	重点 目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
教育環境の充実	① 学校安全の推進	緊急災害時に備えた児童の安全確保のための訓練を浸透させ、児童の危機回避能力を高めていく。学校施設設備の安全点検や保健・安全教育の推進を行う。	B	□	B	□		□		□	50%	50%		
	② 教育情報化の推進	主体的で対話的な学習の推進のため、ICT機器を有効活用した授業を、発達段階に応じて積極的に取り入れる。	B	□	B	□		□		□				
	③ 地域との協働推進	学校支援地域本部事業を積極的に活用し、学習支援や校内美化活動等の協力を依頼する。地域に対しても、学校として協力できることを実施していく。	B	□	B	□		□		□				
	④ 学校評価を生かした学校づくり	自己評価や学校関係者評価をもとに改善点をまとめ、次年度の学校教育目標や重点を見直す。教職員の長所を生かした配置を行い、信頼される学校づくりを目指す。	B	☑	B	☑		□		□				
柱Ⅰ 学習指導の充実	① 授業改善の推進	教員同士が授業を見合ったり、OJTを積極的に推進したりして、授業改善を図り、「わかる授業」「児童が自ら考える授業」のための工夫を行う。	B	☑	A	☑		□		□	50%	63%		
	② 健康体力づくりの推進	規則正しい生活の指導をし、発達段階に応じた健康教育を実施する。食育など、保護者や地域とも協働した取り組みを行っていく。	B	□	B	□		□		□				
	③ 体験活動の充実	校内外において地域の方や各専門機関と連携しながら、体験型学習の機会を多く取り入れていく。	B	□	A	□		□		□				
	④ 今日の課題への取組	個別最適な学びと協働的な学びを工夫して取り入れることで、自ら課題を発見し、解決しようとする能力を培わせる。個々の心に響くような道德教育の充実を図る。	B	□	B	□		□		□				
柱Ⅱ 支援の充実	① 支援環境の充実	教育相談コーディネーターを中心に、児童指導全体会等を通して、個々の児童の課題を全体で共有する。外部機関も積極的に活用し、個に応じた支援の充実を図る。	B	□	A	□		□		□	55%	60%		
	② 安心できる居場所づくりと絆づくりの推進	道德や特別活動を通して、自己肯定感を得られるような活動や、仲間づくりを意識した取り組みを積極的に行う。必要に応じて、個別の指導や適応指導を実施する。	B	□	B	□		□		□				
	③ いじめ対策の推進	学校教育目標の「思いやり」を常に全体で意識し、規範意識を高める。「生活アンケート」の活用や、日々の児童の見取りや問題解決もチームで対応する。	A	☑	A	☑		□		□				
	④ 不登校対策・問題行動対策の推進	不登校が疑われる欠席者については、担任から保護者への電話や家庭訪問等で丁寧に対応する。問題を抱える児童の支援は、専門機関の協力も得て組織的に行う。	B	□	B	□		□		□				
	⑤ 幼・保・小、小・中の連携推進	スタートプログラムを活用し、幼保での学習が生かされるような指導方法の工夫をする。一小一中の地域性を生かし、小中で連携し、カリキュラムの構築を図る。	B	□	B	□		□		□				
柱Ⅲ 学校組織の充実	① 学校・学年・学級経営の充実	年度当初に示された学校経営案をもとに、児童の発達段階や特性を鑑みて学年・学級目標を立て、教育活動を行う。PDCAサイクルに基づき、研修や再考をしていく。	B	□	B	□		□		□	56%	56%		
	② 研修・研究の充実	講師の指導を仰ぎながら、校内研究を進める。経験の浅い教員だけでなく、全教員のスキルアップをめざして組織的なOJTを実施する。校外研修への参加も促す。	A	☑	A	☑		□		□				
	③ 信頼に基づいた指導の推進	日常的に、児童や保護者から信頼されるようなコミュニケーションに努め、深い児童理解と、児童との信頼関係に基づいた適切な指導体制を目指す。	B	□	B	□		□		□				
	④ 働き方改革の推進	会議の効率化や行事の精選を行い、授業力向上や児童理解のための時間を確保する。教職員の心身の健康維持のための計画的な年次休暇の取得を求めていく。	B	□	B	□		□		□				

%は、Sを4、Aを3、Bを2、Cを1とし、計算した数値

評価基準 S・・・想定以上の顕著な成果が見られた(100%～91%程度) A・・・想定していた成果が見られた(90%～71%程度)
B・・・一定の成果が見られた(70%～31%程度) C・・・成果が見られなかった(30%～0%程度)